

91 童話と大衆文化の関係

要旨

海外の文化や歴史と文学のかかわりを調べるために、簡潔で庶民の文化がより反映されていると考えられるそれぞれの地域の童話を用いて研究を行った。

1 研究背景、目的

日本の有名な昔話の一つに『桃太郎』があるが、皆さんはこの作品の中に鬼が登場したとき、どんな情景を想像するだろうか。おそらく、金棒を持った赤い（もしくは青い）大男がすぐに頭に浮かぶと思う。しかし、英語圏の子供たちに桃太郎を読み聞かせしてあげた場合、当然のことではあるが同じような鬼は想像してもらえない。鬼は英語に訳すと *demon* になるが、妖怪に近い化け物である日本の鬼と悪の象徴である西洋の *demon* は全くの別物なのだ。元の意味に最も近いと思われる訳を作っても解釈が大きく異なってしまうのは、作品の裏にある文化的背景が国や地域によって様々であるからだ。我々の研究は、庶民の生活や当時の時代背景が大きく反映される児童文学を用いて庶民文化を読み解き、異文化理解の促進に貢献することを目的としている。

2 研究方法① 客観的読解の試み

本音を言えば各国の童話を何百作品も集めて読み解きたいところなのだが、学校の課題研究という短い期間で研究を完結させるにはある程度研究対象を絞らなければならない。我々は研究する地域を日本とヨーロッパ(具体的な国は後に決めた)に限定することにした。

主観が入りやすいこの研究に客観性を持たせるため、最初に我々が利用したツールはテキストマイニングだった。テキストマイニングは単語の出現頻度や感情の傾向を示してくれるシステムで、プーチン大統領の演説を解析し、ウクライナ情勢の動向を探るのにも使われていた。『ごんぎつね』や『ピーターラビット』など多様な作品を分析したが、作品文化の考察のヒントになるようなデータは得られなかった。

3 研究方法② テーマを絞った丁寧な読解

これまでは日本とヨーロッパの作品という括りで研究を進めてきたが、考えてみればそれも大まかすぎたのだ。我々は対象をさらに狭め、日本と欧米の知名度のある作品のみを取り上げ、その裏にある歴史的背景や人々の生活について分かることを抽出することにした。知名度が高く長い間読み継がれている作品の方がより人々の文化や当時の社会を反映していると考えたのだ。

具体的には、『日本昔話』『グリム童話』を採用した。では、作品の分析から見えてきたことを順番にお見せしたい。

まず、男女の立場の違いである。日本昔話には「～太郎」といった男性が主人公のものが

多く、グリム童話では男性の悪役が登場しない。ここから各地域の男女に関する考え方が探れるかもしれない。現在、男女差別の問題は国際規模で議論されており、日本は格差の是正が遅れているといわれている。その原因にまでたどり着ければ、この研究を始めた甲斐がある。

次に、自然の描かれ方も大きく異なっていることが分かった。『ヘンゼルとグレーテル』や『白雪姫』の中で、森は恐怖の対象として登場している。これをきっかけに各地域の自然観を歴史も踏まえながら探ることができる。環境問題の解決に世界が足並みをそろえて取り組まなければいけない状況で、このテーマはなかなか興味深いものだった。結局我々は、自然と文化のつながりをテーマに活動を進めていくことにした。

5 結論、今後の展望

調べたものの一つにグリム童話には宗教の影響があることが分かった。キリスト教の自然観では自然は神が想像したものであり、基本的に秩序に満ちているとされているが同時に秩序と混沌、神の意志と外の二項対立がある。グリム童話での森は人間社会の外つまり、神の秩序の及ばない場所とし書かれているように思えた。また、グリム童話では登場人物が森で魅了され連れ込まれ、試練を乗り越え成長する内容が多く見られた。これは罪、試練、贖罪、再生のキリスト教的なストーリーのように見ることができる。

とはいっても、ドイツ人の祖先のゲルマン人は森を生活の拠り所にしており、作品からは森林に対する神秘性や親しみの気持ちも読み取れる。その伝統は現代の産業にも見ることができる。現在ドイツでは林業が非常に盛んである。木材生産量は森林大国である日本の二倍にのぼり、林業従事者は減少の兆しを全く見せていない。世界一のチェーンソーメーカーもある。日本の林業がドイツから学んだことも大変多い。

森林の保護・拡大が叫ばれる中で、ドイツの「森林文化」から得られるものは多いだろう。我々の時代は、異文化から学び、互いを理解しながら国を超えた活動をすることが求められる。その一助となれるよう、研究を続けたい

6 参考文献

昔話王国

<https://www.douwa-douyou.jp/contents/html/douwa/douwa6.shtml>

グリム童話の2つの世界

https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/bk2016/pdf/no07_07.pdf

私の森 j p

<https://www.watashinomori.jp/>

<https://www.watashinomori.jp/>